Apparecchi a combustibile solido: pellets di legno
木質ペレット用ストーブ

ミッリー
モデル 515 日本仕様

取扱説明書 – メンテナンス

CE マーク適用の欧州共同体法令に従い製造されたペレットストーブ

Cod. 90003144 Rev. 0

お客様各位
この度は、当社のペレットストーブをお買い上げいただき、誠にありがとうございました。この取扱説明書を**注意してよくお読みください。**据え付けや使用方法、メンテナンス、安全などに関する重要な注意事項、保証に関する条件などを記載しています。お読みにならずお使いになった場合は、「不適切な使用方法」つまり「誤った使用方法」と見なされ、保証修理の対象にならない可能性があります。

もくじ ページ

据え付け・設置 3
安全に使用するために必要な距離 4
接続 4
接続寸法 9
仕様 11
使用方法 12
ペレット燃料 12
ご使用になるには 13
操作パネル 14
本体の調整 15
運転開始・着火 15
液晶画面の表示 17
安全 17
操作パネルのメニュー 18
メニューの詳細 20
日常のメンテナンス・お手入れ 25
日常以外のメンテナンス・定期点検 26
付属品 26
故障かなと思った時とその処置方法 27
アラームが鳴ったら 29
保証書の規定と修理のご依頼 31
仕様記載プレート 32

据え付け・設置を行う方へ

説明と規定

- この取扱説明書の内容を注意してよくお読みください。本製品の据え付け・使用方法・メンテナンス・安全装置に関する重要な指示事項が記載されています。
- 本製品は、代理店が適切と判断した環境と、該当する現行の法規制に沿った環境にのみ据え付け及び使用ができます。
- 本製品の据え付けと組み立ては、現行法に従った証明書を発行する資格がある専門技術者だけが行えます。
- 据え付け場所は、民間建築業に関する現行の法令や規制に従う必要があります。
- また、本体の据え付け・煙突パイプ・電気・水・吸排気に関する全ての法令や規制に従う必要があります。
- **メーカーは、誤った据え付け・違法な改造・本製品の誤った使用・不適切な使用・不十分なメンテナンス・現行法の不履行・不慣れな使用などに起因するあらゆる責任を回避することができます。**

準備作業

- 梱包材を丁寧に取りはずします。
- 梱包材は、お住まいの地域の決まりに従ってリサイクルしてください。
- 据え付けの前に、本製品の全部品を確認してください。疑問がある場合は使用せず、販売代理店へご連絡ください。

ストーブの据え付け場所

- ストーブの据え付け場所について、次の点を必ずお守りください。

– 本体の重量を超える荷重に適した床材：現在の床材がこの条件を満たさない場合は、適切な処置を取る必要があります（例：荷重が均一にかかる石板やプレートなどを敷く）
– 建物が火事になる恐れのない、熱の放射に適した仕様の床材
– 本体を組み立てる際、ストーブ本体・排気管・煙突などの清掃がしやすいように注意してください。
– 引火しやすい物・可燃物からは最低限の距離をとって設置してください（「安全な設置距離」を参照）。
– 法令に従い、設置場所は常に風通しの良い場所をお選びください。

床材の保護

- 本体は、表面が耐熱性でできている場所に設置してください。床が木材やカーペットなど引火の可能性がある材質の場合は、鉄板やセラミックなど耐熱性素材の台座を下記の寸法で事前に準備しておいてください。

– 前面の突出部> 500mm
– 側面の突出部> 300mm
– 背面の突出部> 100mm

安全に使用するための距離

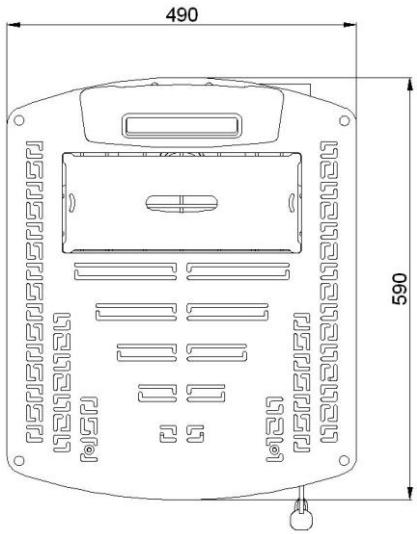
- 引火性ではない物からの距離:

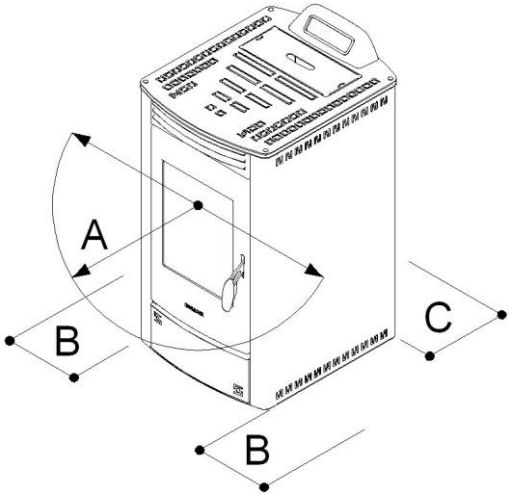
– A > 400 mm B > 100 mm C > 100 mm

- 引火性の物からの距離:

– A > 800 mm B > 200 mm C > 200 mm

- ストーブ上方に何かが設置されている場合、必ず 最低１メートル離すこと





接続

- 本体を接続させる前に、プレートに記載されているデータ（最終ページの写しをご覧ください）が、ご購入の際に希望された内容と一致しているかを確認してください。
- 薪ストーブやペレットストーブなどのバイオマスによる暖房器具は全て、現行法に従って取り付けられた煙突に排煙されなければいけません。
- 正しい取り付けと組み立ての基準は、次のページの通りです。現行基準（この取扱説明書に記載されている通り）に従い実施します。

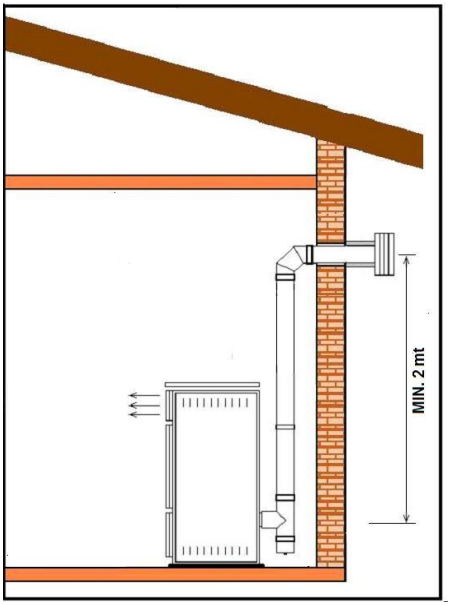
煙突または煙突パイプ

- 煙突または煙突パイプは、次の必要条件を満たす必要があります。
- 煙を漏らさず、使用条件の基準（UNI 9615）に従い熱の絶縁体が使われ、適切な距離を離している。
- ストーブから出る熱、排煙、結露などに対して耐久性のある材質で作られている。
- 出来るだけ垂直方向に排煙が上がるように配管し、配管の軸角度が変わるときは 45 度未満の角度変化で曲げるようにする。
- 可燃性や引火性のある物から適切な距離を置くこと。
- 排煙管内部の形状は円形であること。四角や長方形の場合は、半径が 20mm 以上の丸い角がなければならない。
- 排気管内部空間は不動で障害物がなく、他の排気管とつなげたりしないようにする。（1 つのストーブに対して 1 本の排気管を使用すること）
- 煙突の断面が長方形の場合は、長いほうの 1 辺は短いほうの 1 辺の 1， 5 倍以下であること。
- 暖炉と煙突を設置する際の特徴や場所は、本製品の製造会社の指示に必ず従う。特殊な部分や変更または途中過程の部分に関しては、流体動力を計算し、排煙の仕組みがどのように機能しているか実際に確認しなければならない（UNI 9615）
- 排煙管の一番下の部分に、排煙管にたまった灰や結露の水を取り除くために、簡単に開け閉めすることができるＴ字型の蓋付き排煙管ジョイントを取り付けされることをお勧めします。
- 煙突パイプから火災が発生した場合、炎を覆い消すために適切な手段（例：消火器、無水石膏又は炭酸ガスを使う）を用い、消防署に通報する。

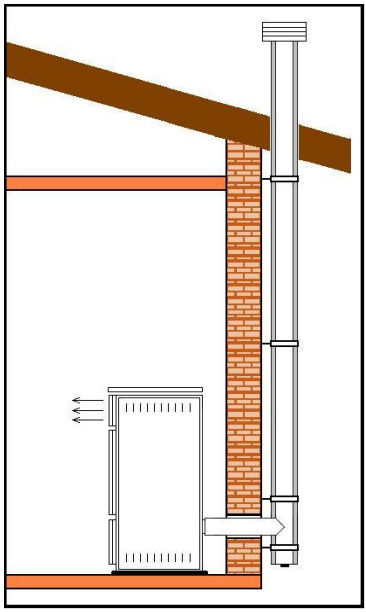
ストーブ本体と煙突パイプの排煙のための接続 (基準 UNI 10683 も参照)

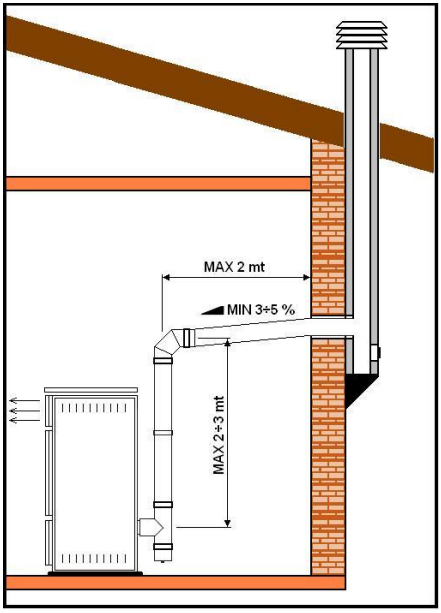
- ストーブ本体と煙突パイプの接続は、ペレットストーブ 1 台分だけの排煙をさせることになります。
- 暖炉部分と、煙突に排煙するポイントが一つだけあるオーブンとで構成されているストーブが、据え付けを許可されています。煙突に関して、製造会社は排煙道の接続の特徴を説明する必要があります。
- たとえ天井にかなりの空間があっても、閉鎖された空間に直接排煙することは禁じられています。
- 煙が直接排出される箇所は屋根の上と規定されていますが、周りの家に迷惑をかけない場所ならペレットストーブ後部排気口から 2 m以上まで排気管が垂直方向に上がっていること。
- 排気管を水平に設置する部分は、傾斜が 3%以上でなければいけません。
- ペレットストーブは強制排気ファンがついているので、排気管にはその排気の通風を妨げるようなマニュアル式の弁があってはいけません。

排煙に関して下図の通りに従ってください。

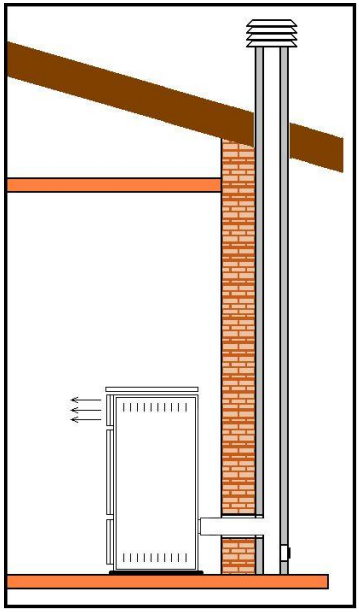


この設置の場合、点火時に発生する煙がご近所に迷惑にならないか確認してください。

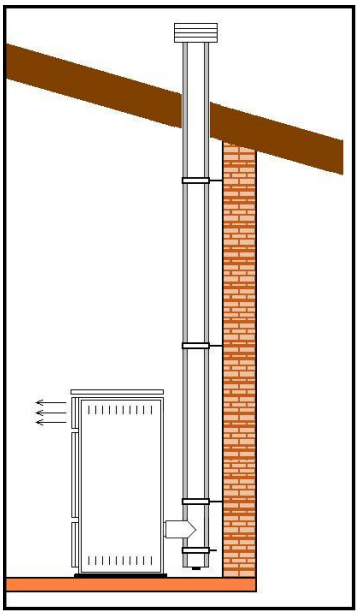


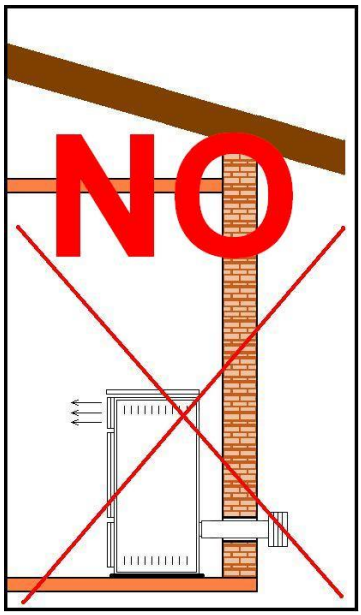


建物の煙突を使用



建物の煙突を使用



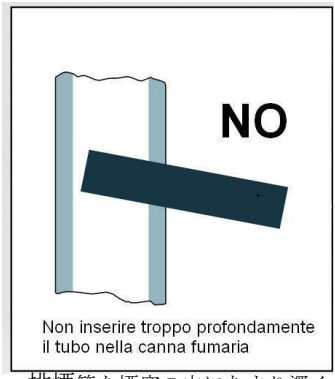


お勧めできません。

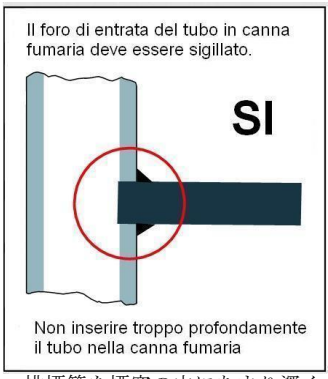
煙突への接続

- 下の右の図のように、排煙管の出口が煙突の中の空間を塞がないようにしながら、既存の暖炉の煙突にストーブ本体からの排煙管を接続します。
- 排煙を密閉できるパッキン付きの排煙管だけをご使用ください。
- 平行部分（長さ最大で２メートルまで）と湾曲部の取り付け使用はできるだけ制限してください。

煙突パイプ上に開けた排煙管の出口の穴は必ず封をしてください。（赤い丸部分）



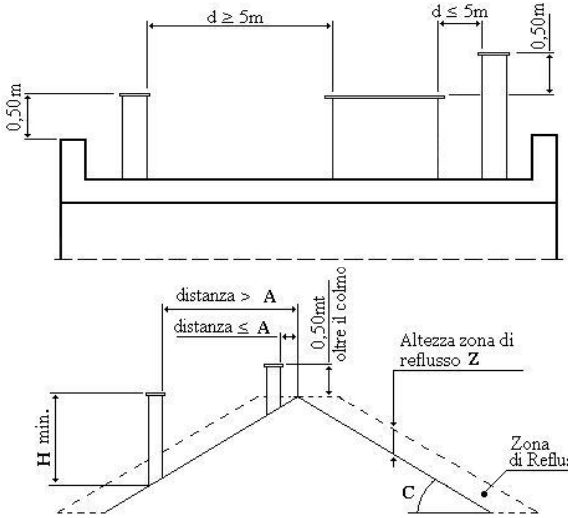
排煙管を煙突の中にあまり深く差し込まないでください。



排煙管を煙突の中にあまり深く差し込まないでください。

屋根の上に突き出た部分の煙突

- 屋根の上に出た煙突部分は、次の条件を満たす必要があります。
- 煙突内部断面は暖炉部分のものと同様のものであること
- 暖炉の内側部分の倍以上の大きさで出口として使用可能な部分があること
- 暖炉の中に雨・雪・関係のない物が落ちてこないように作られていること、また、どの方向から風が入っても確実に排煙できる屋根の勾配であること
- 煙がほどよく分散し希釈されるように設置されていて、反圧力の形成されやすい煙の流れる範囲の外にあるようにすること。その範囲は、屋根の勾配の角度に応じて異なる寸法と構造であること、そのため、（屋根は）下図が示す最低の高さに合わせることが必要になる。



屋根の傾斜=**C** (度)	**A**	**H**	煙が流れるゾーンの高さ = **Z** (m)
15	1.85	1.00	0.50
30	1.50	1.30	0.80
45	1.30	2.00	1.50
60	1.20	2.50	2.10

煙が流れるエリア（左上）

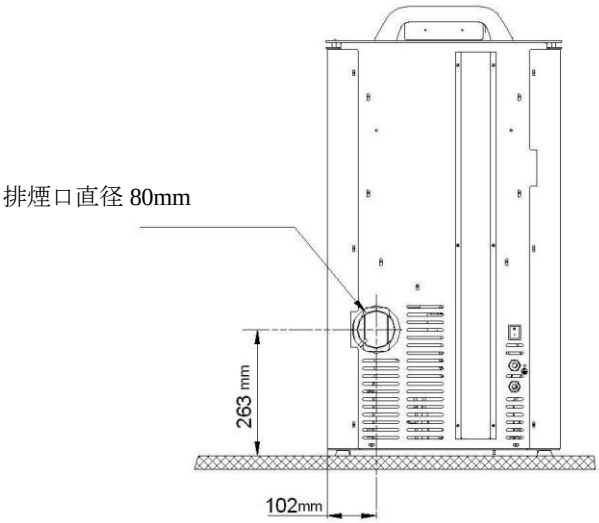
煙の逆流を防ぐ煙突（左下と中央上）

強風の際、影響を受けるゾーンの回転式煙突（中央下）

排煙管の接続寸法

- 購入されたストーブのモデル名をご確認ください。
- 壁に排煙用の穴を開ける必要がある場合はいつも次のことが必要です。

– ストーブを接続するために、寸法を測り壁の上に実物大の大きさで点を描いてください;
– 壁に穴を開けてください;
排煙管を使って、ストーブを外の煙突に接続してください



- 接続された排煙管の状態が**水平ではない場合**（例：上向き加減の場合）**は**、安全のため壁からパイプまで 100mm の距離を離してください。

電気の接続

- ストーブには、電源プラグ付きの接続用電気コードが付いています。接続は"Y"タイプで、交換が必要な場合は、必ず資格のある技術者（販売代理店）にご依頼ください。電源は 100V AC 50/60 Hz です。電気コードの熱くなった表面や切断部分のある表面には触れないように、取扱ってください。
- ストーブには、必ずアースをつけてください。

ストーブを設置する部屋からの燃焼用空気の取り込み

- ペレットストーブは部屋の空気を吸い、ペレット燃料といっしょに燃焼させるので部屋の外から必要な新鮮な空気を取り入れるようにしなくてはいけません。
- 部屋にある外気吸気口は、次の条件を満たす必要があります。
  a) 合計で最低 200 cm²の吸気口断面積がある。
  b) ストーブを据え付ける部屋と直接つながっている。
  c) 200 cm²の吸気断面面積を維持しながら鉄格子や金属網あるいは適切な保護材で吸気口は保護され、またなにか異物などによって閉塞しないような位置にある。
- もし空気の取り入れが常に外部と繋がっている開口部からできるならば、ストーブを設置する部屋に隣接した部屋からも吸気は可能です。しかしその隣接する部屋に別の使用中のストーブがある、又は吸引装置があるために空気が逆流することで、設置部屋と比べて気圧がより低くなっていてはいけません。
- 隣接部屋の開口部は、上記の a)と c)の条件を満たす必要があります。
- 隣接部屋は、車庫・燃料倉庫として使用されていてはいけません。また、火事の危険性のある作業が行われていてもいけません。

注記: ストーブが運転する部屋の空気を取り入れる穴は、低い位置になければならない。

注記：換気扇を同じ部屋又はストーブに近い場所で使用する場合、ストーブの運転機能に問題を引き起こす可能性があります。

注記：設置する部屋や隣接する部屋に吸気用フードや暖炉・煙突などの設備がある場合は、設置する部屋の気圧が下がらないようにする必要があります。

仕様書(日本向け 100V 50/60hz)

詳細			***Milly 515***
幅		mm	490
奥行		mm	590
高さ		mm	935
本体重量（金属板含む）		kg	92
排煙口径		mm	80
最大暖房出力		kW	9.1
最小暖房出力		kW	3.2
最大有効暖房出力（名目）		kW	8.0
最小有効暖房出力（部分的 / エコ運転時）		kW	3.0
一酸化炭素排出量（13%酸素）	最大有効暖房出力	%	0.0052
	最小有効暖房出力	%	0.0416
二酸化炭素排出量	最大有効暖房出力	%	8.40
	最小有効暖房出力	%	7.35
燃焼効率	最大有効暖房出力	%	87.3
	最小有効暖房出力	%	92.8
排煙温度	最大有効暖房出力	°C	176.5
	最小有効暖房出力	°C	98.2
排煙管への排煙量（m）	最大有効暖房出力	g/s	7.0
	最小有効暖房出力	g/s	2.9
ペレット燃料の最大消費量		kg/h	1.90
ペレット燃料の最小消費量		kg/h	0.68
最小—最大自動運転時間		h	8.7 / 24.3
暖房可能容積 （断熱効果が高い家）		m^3	175
暖房可能容積 （断熱効果が低い木造建築など）		m^3	105
試用時の暖炉内の気圧 P.t.: 有効最大時 / 有効最小時		Pa	11.5 / 10.0
燃焼炉内の最小気圧		Pa	> 0
燃焼炉内の最大気圧		Pa	< 20
燃料タンクのペレットの容量		kg	16.5
電気系統			
電圧		V	100
電源周波数		Hz	50 / 60
運転開始時の使用電力		W	340
平均出力時の使用電力		W	100
ヒューズ（5x20）		A	4T
ペレット燃料の種類			木質ペレット直径6 mm

ご使用方法 — お客様へ

重要な注意事項

- この部分の内容を注意してお読みください。使用方法、メンテナンス、製品の安全などに関する重要な注意事項が書いてあります。
- この取扱説明書の各内容を**よく読み、十分にご理解**ください。内容をよく読まず理解しないままご使用になると、本製品を「誤った方法で使用した」と見なされます。
- この取扱説明書は大切に保管し、必要な時はいつでもご利用できるようにしてください。取扱説明書は本製品の一部ですので、所有者が変わる場合は必ず一緒にお渡しください。
- ここに明確に説明されている使用法でのみ本製品をお使い下さい。（ここに書かれていない）他の使用法は適切ではなく、危険な結果を招く可能性があります。
- 本製品を焼却炉として使用しないでください。
- 本製品は、内部も外部も、表面部分の温度が非常に高くなる箇所があり、そこにうっかり触れてしまう可能性がありますから、最大に注意を払ってください。
- **燃焼室ドアのガラス部分には絶対に触らないでください。やけどをする危険があります。**
- 安全のため、（幼児を含む）ストーブの使用に不慣れな人、経験の乏しい人はお使いにならないでください。
- ストーブ全体で、熱くなる表面との熱交換が活発に行われますので、子供や障害のある方、ペットなどが直接触れないように十分注意する必要があります。
- 燃焼室ドアを開ける際は、やけどをしないためにこのストーブ用の手袋（付属品）をお使いください。
- ストーブを正しくお使いになるには、必ず燃焼室ドアを閉めた状態にしてください。ドアが破損したりひび割れたりして異常が起きた場合、ストーブは使えません。または、問題が解決した後で、お使いください。
- 故障や運転の具合が悪くなった場合、電源を抜いて運転を停止してください。
- 修理や部品の交換が必要な場合、ライセンスを持った販売代理店にご依頼ください。 純正部品との交換が必要です。
- 修理有資格者以外による本ストーブの分解・改良は、禁止されています。
- 吸気口 や熱排出口を塞がないでください。
- 本ストーブを、何かを支えたり、脚立の代りに使ったりしないでください。
- 燃焼ポットの中にペレットを手で直接入れないでください。
- 木質ペレット以外の燃料をタンクの中に入れないでください。
- 電化製品なので、濡れた手でストーブに触らないでください。
- 可燃物からは安全に十分な距離を離し、「設置方法」の説明に従って設置してください。

燃料

- 下図に示す質のペレット燃料をお使いください:

良質の木質ペレット

高級ペレットの特徴

発熱能力	kWh/kg	4,8÷5.2
密度	kg/m^3	650
水分含有量	%	Max 8% (ペレット重量の)
灰の割合	%	Max 1% (ペレット重量の)
直径	mm	5 – 6,5
長さ	mm	20 – 30
含有物（内容）		100% 未加工木材

- 次のような固体燃料の使用は許可されていません：わら、トウモロコシ、果実等の芯部分、松かさ、上記に記載されているもの以外。品質が保証されたペレット燃料を販売代理店へご注文くださるようお願いします（「高級ペレットの特徴」の表をご覧ください）。

ペレットに関する知識

- ペレットは、製材所や木材加工所の間伐材・おが屑・かんな屑・木屑などから作られます。このような“原材料”が、接着剤等は一切使わず、ペレットの“燃料”が形作られるまで粉砕・乾燥・圧縮されます。

ペレットの保存方法

- ペレット燃料を乾燥した清潔な場所で保管して下さい。ペレット燃料が湿ると完璧な燃焼を保証できません。

本体を作動させる

- 本体を作動させるには、まず組み立てと排煙管の接続を完了させなければいけません。新品のストーブの場合は、最初の点火後、仕上げの塗料の臭いがするときがあるので、注意して次の手順に従ってください:
  - 運転開始の段階で、本体は不快と感じられる臭いを発生する可能性があります。この臭いを取り除くために、部屋の窓を開けて風を通してください。
  - ストーブの塗料が完全に乾いたら、加熱の段階になります。

燃料の供給

- 燃料を補給する際は、十分に注意してください！ストーブの熱くなっている部分に、ペレットのビニール袋が**触れないように**してください！
- 袋の切れ端や異物が燃料タンクの中に入らないように、最大の注意を払ってください。燃料タンクにペレット以外のものが入ると燃料供給スクリューに填まり込み動かなくなる可能性があります。
- 上蓋を取り外したら、ペレットを高い位置から入れてください。運転中のストーブには、火傷をしないように付属の手袋をお使いください。燃料不足が原因でうっかり炎が消えてしまわないように、タンクの中のペレット供給レベルを頻繁に点検することをお薦めします。タンクのふたは燃料補給の時以外、常に閉まっている状態にしてください。タンクの容量参照（「仕様」を参照)

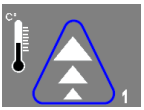
基本的な注意事項

- メンテナンス作業を行う前に、必ずストーブを消して室温に下がるまで放置して下さい。
- 後部の運転スイッチを消したあとで、電源プラグを抜いてください。
- **運転中にストーブのプラグを抜いたり後部の運転スイッチを押したりしないでください。このような操作は、ストーブ内部の排煙を妨げ、全てのモーターを同時に作動させることになります。**

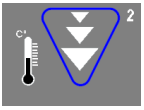
操作パネルのボタン機能

- ペレットストーブには電子ボードが内蔵されており、データが表示される液晶画面の操作パネルから、各種機能の設定をそこで受信します。

ボタン 1 (P1)
- 1回押すと、室温を変更するモードに入ります（温度の変更には、P1とP2を使います。 このモードから出るには、P3を押します）。
- メニューでは、液晶画面で温度を変更します。



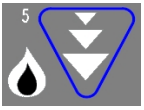
ボタン 2 (P2)
- 1回押すと、室温を変更するモードに入ります（温度の変更には、P1とP2を使います。 このモードから出るには、P3を押します）。
- メニューでは、液晶画面で温度を変更します。



ボタン 3 (P3)
- 1回押すと、プログラムのメニューがONになります（P5とP6を使ってメニューをスクロールします。P3を使ってメニューに入り、P4でメニューから出ます）。
- メニューでは、液晶画面でデータを確認し、次の項目へ進みます。

ボタン 4 (P4)
- 数秒間押し続けると、ストーブが運転開始または運転停止します。
- メニューでは、1つ前の項目に戻る時、または、各種設定メニューからいったん出るために、このボタンを使います。

ボタン 5 (P5)
- 1回押すと、ストーブの出力を調整するモードに入ります（温度の変更にはP6とP5を、メニューから出るにはP3を使います）。
- メニューでは、各種設定メニューの次の項目へ進むために使います。



ボタン 6 (P6)
- 1回押すと、ストーブの出力を調整するモードになります（温度の変更にはP6とP5を、メニューから出るにはP3を使います）。
- メニューでは、各種設定メニューの前の項目へ戻る時に使います。

ストーブ本体の調整

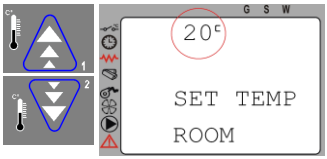
室温の調整

室温設定とは、ストーブの過熱温度に制限を設けることを意味します。もし室温が設定温度（例：20 度）を超えた場合、燃料の浪費を避けるために、ストーブは最小出力（=出力 1）に戻りながら自動的に出力を下げていきます。

-操作パネルの P1 または P2 を押します。

- P1 または P2 で、希望の温度に設定します
- 室温の設定を完了するために P3 を数秒間押すと、

新しい設定温度が記憶され、前の液晶画面に戻ります。



ストーブ本体の運転出力の調整

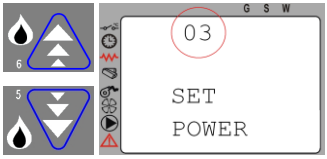
本体は、出力を 5 段階のレベルに調整することができます（1＝最小, 5＝最大）。運転開始後の最初の数時間は、出力 3 で運転することをお薦めします。

本体は設定した出力の数値を、暖房の最大出力数値として使用します。このように、最大出力に上限を設定することができます。いかなる場合も、いったん室温が設定温度まで達すると、燃料の節約のため自動的に出力を下げます（「エコ運転」）。

-操作パネルの P5 または P6 を押します

- P5 または P6 で、出力を変更します
- P3 を数秒間押すと出力の変更が完了し

新しい出力が記憶され、前の液晶画面に戻ります。

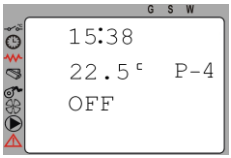


運転開始のサイクル

初めての着火（**ストーブが新品の時、又はタンクの燃料が空になった時**）

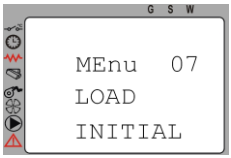
-燃料タンクにペレットを入れ、タンク内底にあるスクリューコンベアーにペレットが落ちていくようにします。

- 液晶画面に”ALARM”（アラーム）”と表示がでた場合、P4 を押し続けます
- 液晶画面に “CLEANING FINAL”（最終クリーニング）”と表示がでた場合、画面に“OFF（消火完了）”と表示が出るまで待ちます（約 10～15 分）。

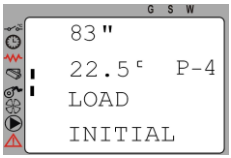


-ストーブの火が消えている状態の時

- P3 を押して、プログラムのメニューに入ります
- P5 または P6 を押して、MENU 07 に移動します
- P3 を押して、”LOAD INITIAL”（燃料供給開始）”のメニューに入ります

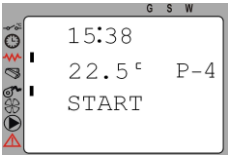


-ペレットが燃焼ポットに落ち始めたら、 P4 を押してペレットが落ちるのを止めます。



必要な場合は、ペレットが燃焼ポットに落ちるまでこの操作を数回繰り返します

- 燃焼ポットに残っているペレットを捨ててポットを空にして、元の位置に戻します。
- 着火開始”START（着火）”の表示が液晶画面に現れるまで、P4 を数秒間押し続けます

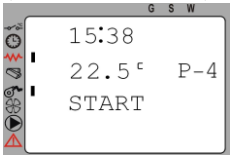


正常な着火サイクル

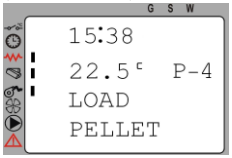
- P4 を数秒間押し続けます

ストーブは自動着火サイクルを開始します。このサイクルは 3 つの段階で構成されており、液晶画面に表示がでます。

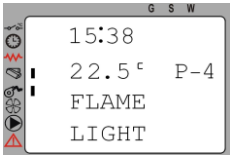
1-着火 (持続時間約 2 分.)
(着火電熱芯の加熱)



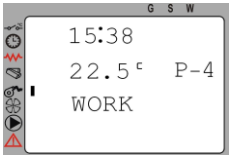
2-ペレットの供給 (持続時間最高 18 ~20 分)
(燃料の供給)



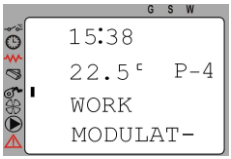
3-燃焼中
(燃焼器の安定)



着火サイクルの終了→運転中
ストーブが設定出力で動きだす



本体は室温をチェックし続けます。設定出力が十分にあり設定室温を超える場合、燃料の無駄遣いを避けるため、本体は自動的に出力を最小値に下げていきます。
本体が自動的に出力を下げた場合、ディスプレイに“WORK MODULAT-”（エコ運転）と表示がでます



ストーブの消火（運転停止）

-操作パネルの P4 を数秒間押し続けると、本体は運転を停止し始めます。スクリューコンベアのモーターが停止し、ペレットはそれ以上供給されません。排煙温度が十分に下がるまで、2 つのファン（排気ファンと温風ファン）は一定時間運転し続け、それから自動的に停止します。

液晶画面の運転状況の説明

液晶画面の表示	ストーブの状態	説明
START	着火電熱芯の加熱	着火電熱芯が加熱し始めることで、着火段階が開始します
LOAD PELLET	ペレット燃料の供給開始	燃焼ポットの中にペレットが入り始めます
FRAME LIGHT	燃料に着火	本体が、燃焼ポットの中のペレットに火が点いたことを感知し、着火後の炎が安定燃焼中です
WORK	設定出力で運転中	着火段階が終了し、設定した出力で運転を続けていきます
WORK MODULAT	出力を下げてエコ運転中	室温が設定温度を越えたため、最小の出力に戻るエコ運転をします
COOLING WAITING	スタンバイ機能の開始	設定された室温を超えると、いったん自動で運転が止まり、温度が下がるのを待ち続けます
ECO-STOP STAND-BY	スタンバイ機能の開始	室温が設定温度を越えたため、まず出力を下げ、それから運転を停止します
CLEANING BASKET	燃焼ポットの自動クリーニング	燃焼ポットに残っている燃料を取り除くために、自動的にクリーニングを始めます
CLEANING FINAL	消火 / 運転停止	消火段階が始まり、燃焼ポットに残っているペレットを燃焼しきる工程（クリーニング）を開始します
HOT EXHAUST	高温の排煙	排煙温度が高くなったことを感知し、一時的に出力を下げます
ALARM ACTIVATD	アラーム、運転停止サイクルの開始	本体が異常を感知し、運転を停止するサイクルが始まり、液晶画面に具体的な問題が表示されます

安全システム

本体が正常に機能し運転することを保証するために、安全システムが装備されています。
—排煙口の圧力監視スイッチ：もし排煙管が、排気方向に対しての逆風、排煙を妨げる異物の侵入等が原因で機能しなくなった場合、この装置が問題を本体に知らせ、運転停止モードを開始させます。液晶画面には、“FAILURE DEPRESS"と表示がでて、アラーム音が鳴ります。

—排煙温度の監視：排煙温度は絶えず特殊な測定器によって監視されていて、本体が正しく機能しているかを点検しています。排煙温度が警戒レベル（警戒レベルの温度は工場で設定されます）を超えた場合、出力を下げながら(HOT EXHAUST)、冷却運転を開始します。それでも排煙温度が上昇し続ける場合、運転停止モードになり、液晶画面には“HOT EXHAUST”（高温の排煙） と表示され、アラーム音が鳴ります。

—排煙モーターの監視：煙を排出するための電気モーターは、正常に機能しているかどうかを確認するため、絶えずモニターで監視されています。異常を感知した場合は、運転を中断し、液晶画面に“FAN LIGHTIN”（ファン故障）と表示され、アラーム音が鳴ります。

—温度の上昇を感知する測定器の監視：本体の正常運転を監視する測定器の機能の調整は、電子ボードが頻繁に点検し管理しています。もしパラメータに含まれない数値を感知した場合は運転を中断し、液晶画面に”ALARM” (アラーム)と表示されます。

メニューパネルの操作

—ボタン 3 を押して、メニューに入ります
—ボタン 5 とボタン 6 を使い、各種設定メニューをスクロールします
—もう一度ボタン 3 を押して、画面に表示されたメニューの中に入ります
—ボタン 5 とボタン 6 を使い、各種設定メニューをスクロールします
　ボタン 1 とボタン 2 を使い、 液晶画面の数値を変更します
—ボタン 3 を押すと、メニューまたは各種設定メニューに入ります
—ボタン 4 を押すと、いつでも 1 つ前のレベル（項目）に戻ります

メニューの詳細説明

- Menu 01/メニュー01 送風ファンの調整
- Menu 02/メニュー02 時計のセット (本体内部の時計を設定).
- Menu 03/メニュー03 予定時刻のセット (自動着火・自動消火を設定).
- Menu 04/メニュー04 言語の選択 (操作パネルの言語の設定)
- Menu 05/メニュー05 スタンバイのモード (スタンバイの ON/OFF)
- Menu 06/メニュー06 アラーム音（アラーム音の設定)
- Menu 07/メニュー07 ペレット燃料の供給開始 （燃料の連続供給を設定）
- Menu 08/メニュー08 ストーブの状態 (本体の運転状態を画面に表示)
- Menu 09/メニュー09 ペレットの変更 (使用するペレットの種類の変更)
- Menu 10/メニュー10 技術調整 (代理店技術者のみ使用可能)

MENU 01 (送風ファンの調整)
当モデルには、このメニューは設定されていません。

MENU 02 (時計のセット)
このメニューでは、電子ボードに日付と時刻を設定できます。設定された日付と時刻は、運転開始/停止のプログラムを有効にする基準になります。時刻（TIME）と日付（DATE）の設定は、自動着火・自動消火のプログラムに影響しますので、十分に注意して実行してください。

MENU03 (時間のセット)
このメニューでは、自動着火/自動消火のサイクルをご希望通り設定することができです。３つのプログラム様式があり、それらを同時に使うことも可能です。プログラムの重複もありえるので、十分注意して実行してください。

PROGRAM DAY（１日のプログラム）：ここに入力する設定は、毎日同じ様式で繰り返されます (着火・消火を最大で２サイクル)。この先の「メニューの詳細」をご参照ください。
PROGRAM WEEK（週間プログラム）：ここに入力する設定は、１週間の間それぞれ異なる曜日に着火と消火を実行することができます（着火・消火を最大で４サイクル）。この先の「メニューの詳細」をご参照ください。
PROGRAM WEEK-END（週末用プログラム）：ここに入力する設定は、土曜・日曜日にのみ繰り返されます（着火・消火を最大で２サイクル）。20 ページの「メニューの詳細」をご参照ください。

MENU 04 (言語の選択)
このメニューでは、液晶画面に使用される言語を変更することができます。
英語・イタリア語・ドイツ語・フランス語の４言語が設定可能です。（日本仕様は英語を使っていますので変更しないようにお願いします）

MENU 05 (スタンバイ・モード)
本体は、異なる２つのモードで機能するように事前に設定されています。

第１のモード「スタンバイ OFF」：―リンカル社によって事前に設定されています。本体が設定された室温に達すると、エコ運転を開始し、燃料の節約のために出力１に戻ります。室温が設定温度より下がると、プログラムされた出力に戻ります（例： 出力３）。

第２のモード「スタンバイ ON」：―本体が設定された室温に達すると、エコ運転を開始し、燃料の節約のために出力１に戻ります。出力１になっても温度が若干上昇し続ける場合は、液晶画面に“ECO-STOP STAND-BY”（エコストップ・スタンバイの開始）と表示がでて運転停止段階に入ります。

MENU 06 (アラーム音の設定)
このメニューでは、アラーム音のモードを選択できます。
OFF は音が出ない / ON はアラーム時に鳴る

MENU 07 (ペレット燃料の供給開始)
このメニューでは、ペレットをスクリューコンベアに連続して供給することが出来ます。液晶画面に“OFF”（消火完了）と表示がでるストーブのみ、この設定が実行可能です。このメニューを使って、ストーブが新品の時、または燃料タンクが空になった時だけ、スクリューコンベアを満杯にすることができます。

MENU 08 (ストーブのパラメーター設定状態)
このメニューでは、ストーブの運転状況の各種設定パラメーター情報を見る事ができます
（販売代理店の技術者専用のメニュー）

MENU 09 (ペレットの種類の変更)
市場の木質ペレットの種類の多様さから、ペレットの種類を時折変えることで、ストーブの燃焼を修正・調整することが可能です。正常に運転している燃焼ポットに、ペレットが多く残りすぎているか、または少なすぎるかのどちらでも正常な燃焼状態ではありません。この MENU 09 でストーブの燃焼状態に小さな調整を加えることができます。運転中の燃焼ポットには、受皿の容量の４分の１から半分ほどのペレットがあるはずです。調整が必要な時はいつでも、次の手順に従ってみることをお勧めします。

a- 本体を観察し、燃焼ポットが満杯になるまでペレットが溜まるかどうか、または炎がほとんど消えるまで全て燃え尽きるかどうかを確認します。
b- ボタン３を押し、メニューの中に入ります。
c- ボタン５とボタン６を使ってスクロールしながら、メニュー09 に着きます
d- もう一度ボタン３を押して、メニュー 09 の中に入ります。
e- KEY ACCESS（=アクセス・キー）を求められるので、**33 番**にたどり着くまで、ボタン１と２を使い、画面上部にある番号をスクロールさせます。
f- もう一度ボタン３を押してアクセス・キーを確認し、ペレット燃料を変更するモードに入ります。
g- 下表が示すように、ペレットの量を増やす場合は数値を大きくし、ペレットの量を減らす場合は数値を小さくします。ボタン１と２を使って、液晶画面に表示される数値を変更します。注意! 数値を変更する際は、1 回の調整につき数値を１つだけ変えてください。（一度に０から２又は０から－２というような大幅な変更は避けてください）1~2 日間運転の調子をみて、燃焼ポットを掃除します。その後燃え方に問題があるようなら新たな数値を再び試すことをお勧めします。

h- 作業中の液晶画面に戻るまでボタン 4 を押しながら、燃焼の調整を終了します。

ペレット燃料を増やす										ペレット燃料を減らす								
9	8	7	6	5	4	3	2	1	0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9

MENU 10 (パラメーター調整)

技術スタッフ専用

メニューの詳細

日付と時刻の設定は注意して実行してください。これらの設定は、自動運転開始・自動運転休止のプログラムに影響します。

Menu 02 時計の設定 - (ストーブに内蔵されている時計の設定)		
画面表示	*説明*	*例*
DAY	曜日	THURSDAY (火曜日)
TIME CLOCK	現在時刻の「時」	15 (**15**:38)
MINUTES CLOCK	現在時刻の「分」	38 (15:**38**)
DAY CLOCK	本日の日付の「日」	10 (**10**/09/2010)
MONTH CLOCK	本日の日付の「月」	05 (10/**09**/2010)
YEAR CLOCK	本日の日付の「年」	07 (10/09/20**10**)
パラメータの数値に注意しながら設定をします。設定上のエラーは自動運転開始・自動運転停止プログラムの異常の原因になります。		

Menu 03 タイマーの設定

PROGRAM DAY（毎日のプログラム）：ここに入力したプログラムは、月曜から日曜まで毎日同じ時間のモードで繰り返されます（着火・消火を最大で 2 サイクル）

PROGRAM WEEK（週間プログラム）：ここに入力したプログラムは、それぞれの曜日に着火・消火を違った時間モードで実行することができます（着火・消火を最大で 4 サイクル）

PROGRAM WEEK-END（週末プログラム）：ここに入力したプログラムは、土曜日と日曜日にだけ繰り返えされます（着火・消火を最大で 2 サイクル）

Menu 03 タイマーの設定 - (自動着火/自動消火プログラムの設定)				
	画面表示	*説明*	*例*	*範囲*
M-3-1	ENABLE CHRONO	毎日のタイマーセットを ON/OFF にする	on	on-oFF
タイマー設定を有効にするか（ON）、または、タイマー設定を解除するか（OFF）の ON / OFF 設定 (毎日・週間・週末).				

	画面表示	*説明*	*例*	*範囲*
M-3-2	**PROGRAM DAY**			
M-3-2-01	CHRONO DAY	毎日のタイマープログラムを ON または OFF にする	on	on-oFF
毎日のタイマープログラムを実行するか（ON）・解除するか（OFF）の ON / OFF 設定				
M-3-2-02	START 1 DAY	運転開始時刻 1 を入力	07:00	00:00-off
M-3-2-03	STOP 1 DAY	運転停止時刻 1 を入力	09:00	00:00-off
M-3-2-04	START 2 DAY	運転開始時刻 2 を入力	17:00	00:00-off

M-3-2-05	STOP 2 DAY	運転停止時刻 2 を入力	OFF	00:00-off

プログラムされた予定時刻は、１週間毎日同じモードで繰り返されます。正確にプログラムを実行するために、メニュー02 の時間入力を注意して行ってください。 運転開始/停止プログラムで OFF を選択すると、ストーブは関連操作を実行しなくなります。 他のタイマー操作は無視して「運転開始のみ」または「運転停止のみ」を実行させたい時は、タイマーの設定に OFF を使用してください。

	画面表示	*説明*	*表示例*	*範囲*
M-3-3	**PROGRAM WEEK**			
M-3-3-01	CRONO WEEKLY	週間のタイマープログラムを ON/OFF にする	on	on-oFF
週間タイマープログラムを実行するか・解除するかの ON/OFF 設定				
M-3-3-02	START PROG-1	プログラム 1 の運転開始時刻の入力	06:00	00:00-off
M-3-3-03	STOP PROG-1	プログラム 1 の運転停止時刻の入力	08:00	00:00-off
M-3-3-04	MONDAY PROG-1	月曜日のプログラム 1 の ON/OFF 設定	on	on-oFF
M-3-3-05	TUESDAY PROG-1	火曜日のプログラム 1 の ON/OFF 設定	on	on-oFF
M-3-3-06	WENDSDAY PROG-1	水曜日のプログラム 1 の ON/OFF 設定	on	on-oFF
M-3-3-07	THURSDAY PROG-1	木曜日のプログラム 1 の ON/OFF 設定	oFF	on-oFF
M-3-3-08	FRIDAY PROG-1	金曜日のプログラム 1 の ON/OFF 設定	oFF	on-oFF
M-3-3-09	SATURDAY PROG-1	土曜日のプログラム 1 の ON/OFF 設定	oFF	on-oFF
M-3-3-10	SUNDAY PROG-1	日曜日のプログラム 1 の ON/OFF 設定	oFF	on-oFF
M-3-3-11	START PROG-2	プログラム 2 の運転**開始**時刻の入力	18:00	00:00-off
M-3-3-12	STOP PROG-2	プログラム 2 の運転**停止**時刻の入力	22:00	00:00-off
M-3-3-13	MONDAY PROG-2	月曜日のプログラム 2 の ON/OFF 設定	on	on-oFF
M-3-3-14	TUESDAY PROG-2	火曜日のプログラム 2 の ON/OFF 設定	on	on-oFF
M-3-3-15	WENDSDAY PROG-2	水曜日のプログラム 2 の ON/OFF 設定	on	on-oFF
M-3-3-16	THURSDAY PROG-2	木曜日のプログラム 2 の ON/OFF 設定	oFF	on-oFF
M-3-3-17	FRIDAY PROG-2	金曜日のプログラム 2 の ON/OFF 設定	oFF	on-oFF
M-3-3-18	SATURDAY PROG-2	土曜日のプログラム 2 の ON/OFF 設定	oFF	on-oFF
M-3-3-19	SUNDAY PROG-2	日曜日のプログラム 2 の ON/OFF 設定	oFF	on-oFF
M-3-3-	START PROG-3	プログラム 3 の	8:00	00:00-off

20		運転**開始**時刻の入力		
M-3-3-21	STOP PROG-3	プログラム 3 の 運転**停止**時刻の入力	11:00	00:00-off
M-3-3-22	MONDAY PROG-3	月曜日のプログラム 3 の ON/OFF 設定	oFF	on-oFF
M-3-3-23	TUESDAY PROG-3	火曜日のプログラム 3 の ON/OFF 設定	oFF	on-oFF
M-3-3-24	WENDSDAY PROG-3	水曜日のプログラム 3 の ON/OFF 設定	oFF	on-oFF
M-3-3-25	THURSDAY PROG-3	木曜日のプログラム 3 の ON/OFF 設定	on	on-oFF
M-3-3-26	FRIDAY PROG-3	金曜日のプログラム 3 の ON/OFF 設定	on	on-oFF
M-3-3-27	SATURDAY PROG-3	土曜日のプログラム 3 の ON/OFF 設定	on	on-oFF
M-3-3-28	SUNDAY PROG-3	日曜日のプログラム 3 の ON/OFF 設定	on	on-oFF
M-3-3-29	START PROG-4	プログラム 4 の 運転**開始**時刻の入力	16:00	00:00-off
M-3-3-30	STOP PROG-4	プログラム 4 の 運転**停止**時刻の入力	22:30	00:00-off
M-3-3-31	MONDAY PROG-4	月曜日のプログラム 4 の ON/OFF 設定	oFF	on-oFF
M-3-3-32	TUESDAY PROG-4	火曜日のプログラム 4 の ON/OFF 設定	oFF	on-oFF
M-3-3-33	WENDSDAY PROG-4	水曜日のプログラム 4 の ON/OFF 設定	oFF	on-oFF
M-3-3-34	THURSDAY PROG-4	木曜日のプログラム 4 の ON/OFF 設定	on	on-oFF
M-3-3-35	FRIDAY PROG-4	金曜日のプログラム 4 の ON/OFF 設定	on	on-oFF
M-3-3-36	SATURDAY PROG-4	土曜日のプログラム 4 の ON/OFF 設定	on	on-oFF
M-3-3-37	SUNDAY PROG-4	日曜日のプログラム 4 の ON/OFF 設定	on	on-oFF
正確にプログラムを実行するためには、メニュー02 の時計調整を注意して下さい。 運転開始/運転停止のプログラムで OFF を選択すると、関連操作を実行しなくなります。 他の操作は無視して「運転開始のみ」または「運転停止のみ」を実行させたい時だけ、 予定時刻の設定に OFF を使用します。				

	画面表示	*説明*	*表示例*	*範囲*
M-3-4	**週末のプログラム**			
M-3-4 01	CHROMO WEEK-END	週末のタイマーを ON/OFF 設定	on	on-oFF
週末（土曜・日曜）のプログラムを実行するか・解除するかの ON/OFF 設定				
M-3-4 02	START 1 WEEK-END	運転開始時刻 1 を入力	07:00	00:00-off
M-3-4 03	STOP 1 WEEK-END	運転停止時刻 1 を入力	12:00	00:00-off
M-3-4 04	START 2 WEEK-END	運転開始時刻 2 を入力	14:00	00:00-off
M-3-4 05	STOP 2 WEEK-END	運転停止時刻 2 を入力	off	00:00-off

プログラムした予定時刻は毎週末繰り返されます。プログラムを正確に実行するために、メニュー01 のデータに注意して調整してください。運転開始/運転停止のプログラムで OFF を選択すると、関連する操作を実行しなくなります。 他の操作は無視して「運転開始のみ」または「運転停止のみ」を実行したい時だけ、予定時刻の設定に OFF を使用します。

Menu 04 言語の設定 - （操作パネルの言語の設定).		
画面表示	意味・説明	表示例
SELECT LANGUAGE	操作パネルの言語を設定します	ENGLISH
設定可能な言語: イタリア語、英語、ドイツ語、フランス語(本機は英語に設定してあります)		

Menu 05 スタンバイ・モード - （室温と燃焼室の運転停止のタイプを設定します）		
画面表示	意味・説明	表示例
STATUS STAND-BY	室温または燃焼室の温度が設定温度を越えた場合の運転中断モードの ON/OFF 設定	oFF
選択肢 : on または oFF ON: 室温が設定温度より 2℃高くなると、本体は消火サイクルを開始します。 OFF: 室温が設定温度を越えた時、本体は消火せずに最小出力で作動し続けます。		

Menu 06 アラーム音のモード - (アラーム音の設定).		
画面表示	意味・説明	表示例
STATUS BUZZER	アラーム音を出すか出さないか選択できます	ONLY ALARMS
選択肢 : on または OFF OFF – アラーム音を鳴らさない（アラーム時も） on – **アラーム時にアラーム音が鳴る**		

Menu 07 燃料の供給開始 - (燃料の連続供給モードを ON にします).		
画面表示	意味・説明	表示例
LOAD INITIAL	本体の機能の情報を画面に表示します	
このメニューは、本体が OFF（火が消えている）状態の時だけ有効にできます。 このメニューは、購入後初めて点火する時と、スクリューコンベア内が完全に空になり、再度スクリューコンベアをペレットで満杯にするために使われます。		

Menu 08 ストーブの状態 - (ストーブの状態を液晶画面に表示します).		
画面表示	意味・説明	表示例
STATUS STOVE	ストーブの運転情報を液晶画面に表示します。	
画面に表示されたデータ: 情報は代理店技術者のみ使用可能		

Menu 09 ペレットの種類の変更 - (ペレットの種類の変更によりペレットの供給量を調節する).		
画面表示	意味・説明	表示例
KEY ACCESS	ペレットを変更するためのアクセス・コードを入力	33
LOAD PELLET	ペレットの供給量変更	-01

Menu 10 技術調整 -(代理店の技術者用).		
画面表示	意味・説明	表示例
SETTING TECHNIC	**代理店の技術者**のみアクセスできるメニュー	
KEY ACCESS	アクセス・コードを入力します	
正常な状態に戻す調整が必要な場合に、代理店技術者のみが使用できる		

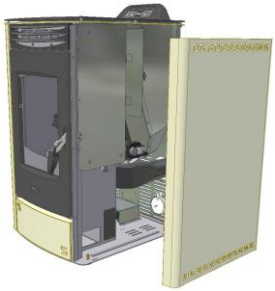
安全

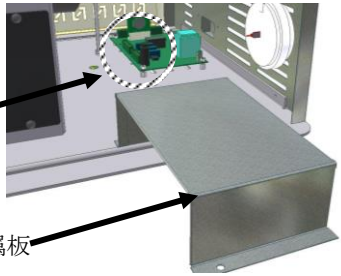
- 使いやすさと機能の安全: 電子デジタル操作パネルは、燃焼排煙ファン・ペレット燃料供給・温風ファン・室温のチェックなど組み合わせた指令を出します。このシステムは、運転費用を最小限におさえながら、ストーブの最良の燃焼状態で機能することを保証しています。
- 優れた燃焼効率ときれいな排気ガス. 熱交換部の広い表面面積は、燃焼用空気を最良の状態にコントロールする働きと共に、結果として高い燃焼効率を生み出します。燃焼ポットにペレットが少しずつ補給されることで、燃焼排気の中に放出される熱を低く抑え、完全燃焼を可能にしています。
- 日本販売仕様のストーブには感震装置をオプションで後付けすることが可能です。震度５以上の揺れを感知すると安全のために自動的にペレット燃料供給をストップさせます。（ストーブを冷ますために排煙ファンと温風ファンはその後 5 分から 10 分間作動し続け、冷ました後完全停止します。）

自動安全機能

- 電圧の低下： 電圧が一時的に落ちた際も、安全に対する危険は一切なく、本体はいったん運転を停止し、正常な機能を回復しながら、つまり自動運転開始を再実施しながら、運転を再開します。
- 過熱による自動消火システム： 本体が異常に過熱した場合、ストーブを消す安全システムが作動します。ストーブは、少なくとも４５分間冷却し続けた後で、再運転ができるようになります。もし過熱状態が続く場合は、販売代理店か専門技術者に点検をしてもらう必要があります。
- 低温度による自動運転停止： もしストーブの温度がある一定の温度以下に下がってしまう場合、本体は自動的に運転を停止します（例えば、燃料が燃え尽きることで）。このような自動運転停止は、運転開始が極度に遅すぎる場合にも起こります。このようなケースでは、ストーブを再運転開始する必要があります。
- 過電流から保護するための電子装置：本体は、ヒューズからの過電流に対して保護されていて、（その機能は）電子ボードに組み込まれています（技術仕様データを参照）。 *もし交換が必要になった場合は、本体の電源を切り、背面の電源スイッチを OFF にし、電源プラグを抜いてから、販売代理店の資格者にご依頼ください。*

  - 側面板に固定されている前方と後方のビスをはずし、側面板を取り外します
  - 電気の配線と接続に十分注意をします
  - ヒューズにアクセスするために、ストーブの奥の固定ビスをゆるめながら、電子ボード保護金属板を移動させます
  - ダメージのあったヒューズを取り除き、新しいものと交換します
  - 配線を傷つけないよう十分注意を払いながら、電子ボードの保護金属板を再び取り付けます
  - 側面板を再び取り付け、前方・後方のビスを閉めて固定します

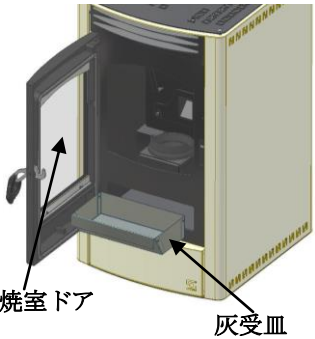




メンテナンスと清掃
本製品をご使用になる皆さまへ

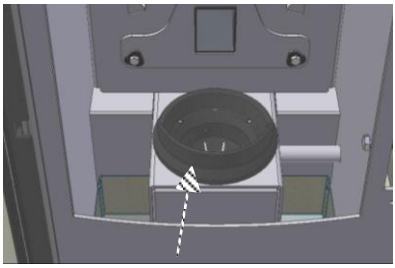
日常のメンテナンス

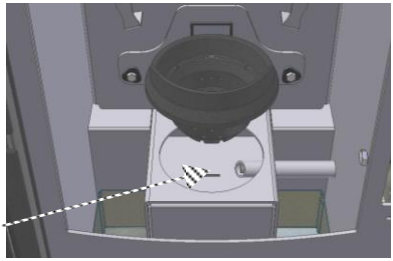
- ペレットストーブを清掃する頻度は、メンテナンスの頻度と同じように、使用するペレットのタイプとその使用量によって異なります。ペレット燃料の中で湿った部分が多かったり、灰、燃えかす、木くずや化学添加物などは、メンテナンスをする必要がある回数が増えることにつながります。そのため、当社が推薦する本製品に適した木質ペレット燃料のみご使用くださるようもう一度お願い申し上げます。
- **燃焼ポットの清掃** ペレットストーブを最良の条件でご使用いただくためには、**毎日燃焼ポットを丁寧に清掃する必要があります**。燃焼ポットを引き出し、ペレットの燃えカスを捨て(燃えカスがまだ熱い可能性もあるので、十分注意してください)、燃焼ポットの底の穴をきれいに掃除してから、元の位置に戻してください。
- **灰受皿の清掃**
- 灰受皿は燃焼室の下の方にあり、取り出す時は燃焼室ドアを開けます。
- 灰受皿を外に取り出します。
- 灰受皿は、専用の手袋を使って、燃料の燃え残りを毎日取り除きます。この作業は、ストーブが完全に冷えた時に行います。まだ熱い燃えカスに十分注意して作業してください。
- 灰受皿を元の位置に戻し、燃焼室ドアを閉めます。運転の際、皿が正しく元の位置に戻っていないと、危険が生じる可能性があります。



燃焼室の毎日の清掃.
空気口が灰やペレットくずで塞がれないように、燃焼室をつねに点検する必要があります。燃焼室は、電気掃除機を使って簡単に内部を掃除することができます。燃焼ポットに付着したよごれは、付属の専用道具を使って取り除いてください。

- 燃焼ポットを取り出した後、 着火過熱芯の中に堆積物がある場合は取り除いてください。燃焼ポットを元に戻すとき、ポットの側面にある大きい穴が、着火過熱芯に合うよう確認してから入れてください。


燃焼ポット


着火過熱芯

- **ペレットタンクの清掃**. ペレットタンクに付着するおがくず等を定期的に除去してください。この作業をする際、ストーブがペレットをほとんど完全に使い切ってしまう必要があります。まず、本体の運転を停止してください。次に、電源プラグを抜いて、ストーブが冷えるのを待ちます、掃除機を使って底の方に残っている物を取り除きます。必要があれば、タンクの中の鉄格子を取り出します。作業が完了したら、全てを元に戻します。

- **外側の清掃**. この作業は、ストーブが冷えた状態で行います。
  - 鋼鉄・鋳鉄の部分: 鉄に適した素材の濡れた布を使います
  - ガラス・セラミック部分: ストーブや炉のガラス部分をクリーニングするのに適したスポンジを濡らして使います。後で、乾いたぞうきんで拭きます
  - ニス・塗料が塗ってある部分: 中性洗剤を薄めにつけた布切れを使います。その後、湿ったぞうきんで拭きます

長期間ストーブを使用しなかった場合、点火前に煙突パイプと排煙管が塞がれていないことを確認してください。

日常以外のメンテナンス

重要！

お客様のストーブの正常な燃焼効率と保証期間（2 年）の有効性を維持するために、最低 1 年に 1 回、さらにストーブを使ったシーズンが終わる度に、専門の技術者にご依頼いただき、特別メンテナンスを行う必要があります。:

- 排煙管内の清掃
- 排煙ファンの清掃
- パッキンの点検と交換
- 煙突パイプと排煙管出口部の点検

上記のメンテナンス作業は、**販売店技術者へお尋ねください。**

注意：毎日ご使用になる時間数と、高品質のホワイトペレット等をお使いの場合はメンテナンスの回数を減らすことも可能です。

付属品

次の部品はストーブの付属品です:

- 運転中、燃焼室と燃焼ポットの中の燃え残りをずらすための部品
- ドアーノブなど熱くなる部分のための付属手袋

起こりえる不具合や故障とその処置方法

欠陥・問題・異常	原因	処置方法
炎はオレンジ色で弱々しく、ペレットは燃焼ポットの中に溜まり、炉室ドアのガラスが煤で覆われてしまう	燃焼用の給気が不十分 ペレットの過剰な落下	– 空気が入ってくるのを塞いでいるかもしれない灰やくず等を、燃焼ポットから取り除く。可能であれば、ペレットをより品質の良いものに変える – 燃焼用空気の通り道が灰で塞がっていないかを点検する（「燃焼室の清掃」を参照） – 給気管や排気口管が詰まっていないかどうかを点検する – 炉室ドアの気密性を保つパッキンが弱くなっていないかを点検する – 販売代理店に依頼し点検する（操作の調整・本体の清掃） – 上記の通り、燃焼状態を調整する – 販売代理店に調整を依頼する
火が自動的に消える、または、ストーブが自動的に運転を停止する	– ペレットタンクが空である – ペレットが送り込まれない – 最高温度のサーモスタットが作動した – ペレットの品質の劣化 – ペレットの補給がかなり不足している	– ペレットタンクを再度満タンにする – 問題点「ペレットが送り込まれない」を参照する – ストーブを 1 時間ほど冷ましてから、再点火する – 品質の良いペレットに変える – 他の種類のペレットを試しながら、燃焼状態を調整してみる（「燃焼の調整」を参照） – 販売代理店に調整を依頼する

ペレットが送り込まれない	– タンクが空である – スクリューコンベアや電子ボードに不具合がある – スクリューコンベアが詰まっている（木屑やほかの異物で）	– タンクの中身を点検する。必要ならば、再びペレットを満杯にする – 資格のある販売代理店に問題を点検を依頼し、必要なら故障部品を純正品と交換する – タンクとスクリューコンベアを清掃する – 必要な場合は、もう一度ストーブを点火する
ストーブが数分間は運転するが、すぐに停止してしまう（開始時）	排煙温度が、必要な温度に達しない	– 必要なら、もう一度ストーブを点火する
操作パネルの電源が入らない	ストーブに電流が通じていない	– ストーブの電源プラグがコンセントにきちんと差し込まれているか点検する – スイッチの位置が 1 にあるかを点検する – 電気ボードのヒューズを点検し、必要なら取り替える
煤や灰がストーブの外に飛び、ストーブの外側に付着する	– 炎が燃焼中に、燃焼室のドアが開いている – 燃焼ファンと排煙管の接続部分が密封されていない。ストーブの後ろ側の床に埃があれば、その信号である	– 燃焼室のドアを常に閉めておくこと。ストーブを運転停止した時だけ開けるようにする – 排煙システムの気密性が欠けている場合は、販売代理店に連絡して、問題を解決する（アルミ製接着テープ、密封用テープまたは耐熱シリコンなどを使用する）

修理が必要な場合は、当社認定の販売代理店、又は有資格技術者にご依頼ください

注意：修理作業の前には必ずストーブの電源を抜いてください。

液晶画面のアラーム表示

アラーム	説明	考えられる原因	処置方法
NO LIGHTIN	運転開始時、ペレット燃料への点火が確認されなかったか、又は、炎が確認されなかった	ペレットの補給が不十分	タンクの中にあるペレット量を確認する スクリューコンベアの機能を確認する 電気系統の接続を確認する
		着火過熱芯の故障.	*着火過熱芯.を取り替える*
		排煙感知器が炎を感知しなかった	排煙温度感知器の位置・機能・電気系統との接続を確認する
		着火しにくいペレット	*品質のより良いペレットに変える*
FAN LIGHTIN	排煙ファンモーターの故障	異物がモーターを詰まらせている	排煙管を確認する
		電気系統の接続が故障している	*モーターの給電接続と回転速度計（エンコーダー）の接続状態を点検する*
		モーターの破損	モーターを取り替える
NO FIRE	燃焼ポットの中の火が感知されない	燃料の補給ができていない	タンク内のペレット量を確認する スクリューコンベアの機能を確認する
			スクリューコンベアが詰まったり遮断したりしていないかを確認する 電気系統の接続を確認する
		感知器の測定	*排煙感知器の位置を確認する* *排煙感知器を点検・交換*
FAILURE DEPRESS	排煙管が塞がれている状態を感知	排煙管の閉塞	排煙管を確認
		電気系統の接続の中断・遮断.	*圧力スイッチの電気系統の接続を統合的に確認*
		圧力スイッチの破損	圧力スイッチを取り替える

SAFETY THERMAL	ペレットタンクや温風ファンの温度が許容温度を超える	– ストーブ上部または前面にある温風排出口の閉塞 – サーモスタットの温度測定器の故障 – 温風ファンのモーターの故障	– 上部・前部の温風排出口を確認する – サーモスタットを取り替える – 温風ファンのモーターを確認する
FEELER EXHAUST	排煙感知器の信号エラー		排煙感知器を確認・交換
HOT EXHAUST	排煙の温度が上昇し過ぎる	ストーブの燃焼がエラー *燃料を変える* 感知器の測定	本体を販売代理店に見てもらう。 「ペレットの種類を変更する」を試す。 *販売代理店にストーブを見てもらう* *品質のより良いペレットを使う* *「ペレット燃料の変更」を実行する* 排煙感知器の位置を確認する 排煙感知器を確認し交換する
BLACKOUT	運転中に電源が落ちた（電気が切れた）		燃焼ポットに燃え残りがある場合は、清掃しポットを空にした後ストーブを運転してみる

保証条件と修理のご依頼について

- このペレットストーブの保証期間は 欧州共同体が定める消費財の法令 1999/44/CE と同じく、日本国内でのお買い上げの際の領収書・請求書または購入日の日付が記載されている書類の日付から、2 年間になります。
- リンカル社による保証は、 日本国内全ての地域をカバーします。
- リンカル社による保証は、本ペレットストーブの製造部品全て（ガラスや通常お使いいただく消耗品は除いて）をカバーし、その上、欠陥品であると認められた部品の交換費用全額も含みます。

保証は、次のような場合に有効です:

- お客様（購入者）が、本製品の購入とその日付を示す領収書をお持ちであること。その領収書は、保証によるサービスを受けるための**絶対条件**で、サービスを受ける**前に**リンカル社ストーブ日本販売店にお見せください。前述条件が欠けている場合、（保証が）困難になります。
- お客様（購入者）が、購入にあたり、契約の支払方式を規定通りに行い、 いかなる理由による支払いの遅延がない場合。
- **異常が製造工程での欠陥によるものであり、誤った使用方法やメンテナンスの不足によるものではないが明らかである。**

保証は、次のような場合は無効です:

- 本取扱説明書の規準に記されている特徴と一致していないか、または、製品仕様一覧にある排気管サイズと違うものを使用したことが原因で起きた不具合があるとき。
- 本ストーブが使用されている部屋の中で、異常な環境の原因があるとき、または、大気・気候・化学・電気化学的要因による被害・損害があるとき
- 誤った設置・無許可の改造・不適当な使用・雑な使い方などによって生じた運転の不具合があるとき
- 適さない燃料の使用、例えば、生の薪、湿気をかなり含む薪、取扱説明書に指示されている燃料と異なる燃料を使用したとき。ペレットストーブの場合、品質保証された木質ペレットではない材質を使用した場合

保証には含まれません：

- 本体の清掃、日常のお手入れ（灰の掃除）
- ガラス部分と通常の使用で消費される部品
- 落として生じた偶然の故障や、当社に責任のない運搬による損害。***設置前に、本ストーブの完全な状態を確認してください***
- セラミックの部分の色の違いや細かな 寸法のわずかな誤差は、その材質の自然な特徴なので、保障請求の理由にはなりません。

リンカル社 LINCAR S.p.A. は、取扱説明書に記述されている指示全てに十分に従わなかったり、誤った設置方法、本体の不正な改良、不適切な使い方、不十分なメンテナンス、乱暴な使い方、現行の規制や法令の違反などの理由で、直接的または間接的に、人・物・動物にもたらす可能性がある偶発的な被害すべての責任を回避します。
リンカル社 Lincar S.p.A.は、取扱説明書にある本ストーブ設備の特徴を、予告なしに手直しをする権利を留保します。
この取扱説明書に説明されているいくつかの部品や付属品は量産品ではないため、部品代等の費用はご購入販売店にお問い合わせください。

*リンカル社 LINCAR S.p.A.の製品の保証に含まれる修理をご依頼される際は、 この取扱説明書の中、あるいは、販売代理店にある**保証の修理依頼のフォーム**を送付することが義務付けられています。*

仕様記載プレート

下記は、本体の使用を記載した特製プレートを複写したものです。

総輸入販売元

株式会社ミツイバウ　マテリアル　〒515-0104 三重県松阪市高須町 3460-125
TEL 0598-51-3308　FAX 0598-51-3307
E-mail lincarjapan@lagoon.ocn.ne.jp　URL http://www.lincarjapan.com

製造元

Lincar S.p.A. Via E. Fermi, 5 – 42046 Reggiolo (RE) – Italy –
Tel. +39 0522 972260 – Fax +39 0522 973625　www.lincar.it - info@lincar.it